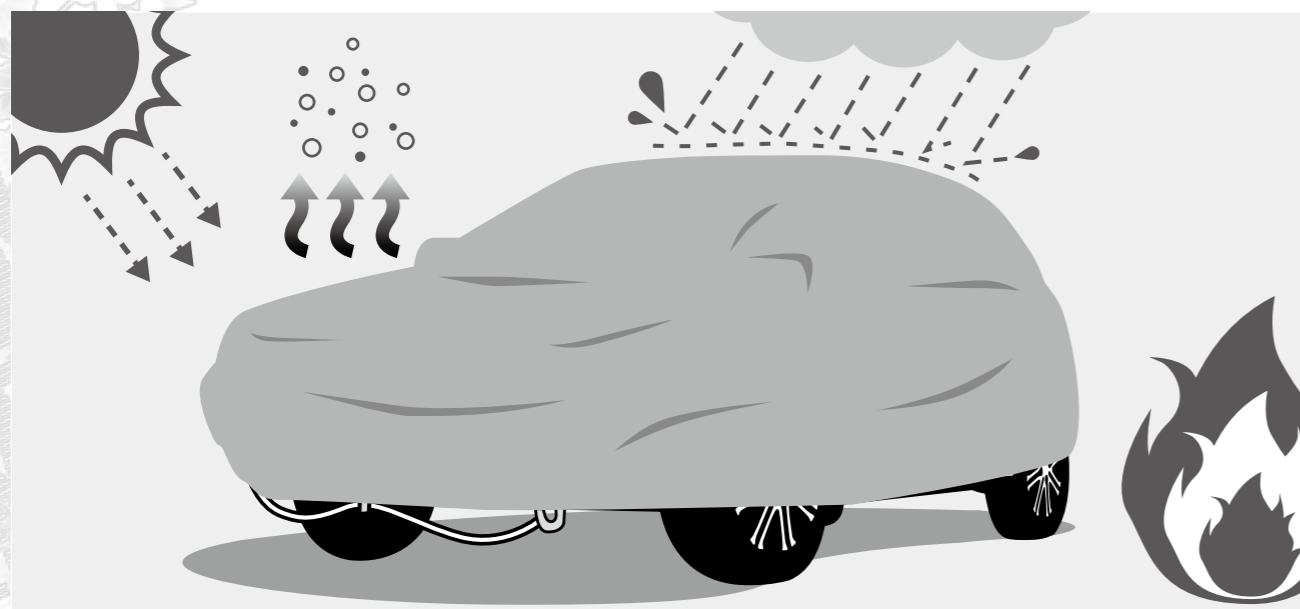


生地について

🚗 特長

- 材質は、ポリエステル100%の生地で、カラーコーティングや、撥水・防炎加工等を施しております。
- 完全防水では無いため、縫い目の部分から水分はある程度入ってしまいますが、この縫い目は、日射から受ける熱によって蒸気になった水分を逃がす役割も兼ねています。

※ 密閉してしまうと内部の水分を逃がすことが出来ず、塗装だけでなく、かぶせた本体によくありません。



d 生地の厚みとは

糸の太さの単位「d(デニール)」を用いております。数字が大きいほど生地が厚くなり、丈夫になります。各商品ページでは、「耐久性」の項目にて表示しています。

300×300d相当

約0.40~0.45mm

起毛Ⅱ(9P)
※裏面を特殊起毛加工

250×250d

約0.16~0.18mm

防炎厚地(11P)

150×150d

約0.13mm

エルエス(15P)

50×75d

約0.08~0.09mm

防炎(13P)
ちょっとかけるクン(17P)
シンプル(19P)
背高RV(21P)
軽自動車用(23P)

🔥 防炎とは

繊維等の材料が小さな火源に触れても容易に燃え上がらず、もし燃えたとしても、際限なく燃え上がらないことを意味します。同じ意味で「難燃」も用いられます。

防炎・非防炎比較動画



防炎Q & A

Q	A
1 認定品とは？	(公財)日本防炎協会の防炎性能試験基準に合格した生地を使用し、かつ防炎製品ラベルを縫い付けた製品のことで。
2 なぜ防炎カバーが必要？	多くの車が不審火の犠牲になっています。あなたの愛車を不審火から守るためです。
3 長時間使用しても、難燃性は変わらないか？	紫外線やほこり等の影響で若干ずつではありますが性能が低下する恐れがあります。
4 普通のカバーより高額だけど…？	燃えにくい酸化アンチモン等の加工を施しているため、生地のコストがアップしているためです。
5 マフラーに当たっても溶けない？	耐熱性ではありません。走行直後は非常に高温ですので溶ける恐れがあります。普通のカバーと同様に、エンジンを止めてしばらくしてからかけてください。

🚿 ボディーカバーの洗い方

- カバーにゴミや汚れが付きますと撥水効果がダウンします。
- お車を洗車されるように、水又はぬるま湯で汚れを洗い流してください。(車にかぶせたままでのお手入れや、洗濯機・洗車機のご使用はしないでください。)
- カバーはドライクリーニング出来ません。コーティング面が剥離する可能性があります。
- 中性洗剤以外の洗剤やベンジン・シンナー等は使わないでください。内側(ボディーに当たる側)に洗剤を使用した場合は、十分に洗剤を洗い落としてください。洗剤が残って塗装面に悪影響を及ぼす可能性があります。
- カバーは、よく乾かしてからご使用ください。